

1. 医学部教育

六年一貫教育制度での新カリキュラムが導入されて5年目を迎え、平成8年度も前年度に続き、この制度・カリキュラムをその理念に基づいていかに実施するかが大きな課題であった。

A 全学教育

全学教育は一般教育を全学部が協力して担当する全学協力方式で成り立っている。医学部は人間科学分野の担当部局の任を担うとともに、延べ120名の教官が人間科学分野を中心に30科目の授業を担当した（表1）。

B 専門教育

1～4年次生の授業は平成7年度と基本的に同じ時間割に従って実施され、新カリキュラムでの教育が定着した。これらの授業は従来の講座中心ではなく、関連分野の教官で組織する教科目（疾患各論では臓器別）毎の運営委員会で責任者（表2）を中心に授業内容・方法・担当者等の授業計画を作成し、それに従って各担当教官が授業を行っているが、この方式も完全に定着し、新カリキュラムの理念が実践されている。学生の科学的好奇心の喚起、科学的創造性の育成を図って導入されたリサーチセミナーも2年目を迎え、4年生全員がそれぞれの研究テーマに取り組んだ（表3）。

5年次生の授業は新カリキュラムで初めて実施された。新カリキュラムの大きな柱の一つとして、臨床実習の大幅な時間増による内容の充実が挙げられていた。その具体的実施計画（案）は実習前に行うべき授業内容および時間数、旧カリキュラムで学ぶ6年次生の実習との重複等を考慮して、すでに平成7年度中に作成されていたので、それに従って実施された。即ち、5年次前期は講義帯IおよびII（4月～5月および9月）と臨床実習帯（6月～7月）に区分し、後期は全て臨床実習帯とした。

臨床実習帯は全て終日実習とし、3週間を1単位として5～6年次にかけて合計13単位の実習を行うこととなっており、平成8年度には5年次前期に2単位、後期に6単位が施行された。実習の目標、日程、内容・方法、評価方法等は実習各科で具体的に定められ、「平成8～9年度臨床実習の手引」として学生に配付され、それに従って実施された。内容によっては大学病院での実習では効果が期待されない実習もあることから、学外の病院・施設と「臨床実習に係る協定」を締結し（表4）、これらの病院・施設の協力を得て主としてプライマリーケア、老人医療、障害者福祉等に関する実習の充実が図られた。

講義帯では社会医学II、法医学、医と社会および総合病理学の授業と臨床各科の総括講義が行われた。医と社会は医の倫理、医療心理学、医療社会問題等について学ぶ教科目として、新カリキュラムで導入されたもので、6年次にも引き続き開講される。総合病理学も新カリキュラムで導入された教科目で、CPCを中心にした授業と臨床実習帯での実習が平成8年度に初めて行われた。

平成8年度の6年次生は旧カリキュラムで学ぶ最後の学生であった。カリキュラムの移行に伴っての臨床実習の重複が5週間にわたってあったが、関係教官の協力によって支障なく実習が行われた。平成8年度の6年次在學生は113名で、そのうち正規卒業者は107名、卒業延期後卒業者1名、留年者（休学を含む）5名、正規卒業者の医師国家試験合格率は94.4%であった。

（平成8年度 医学部長 長瀧 重信（4月～9月）、池田 高良（10月～3月）
教務委員長 毎田 徹夫、学生委員長 矢野 捷介）

（文責 毎田 徹夫）

表1 平成8年度 医学部教官の全学教育への参画

A. 全学教育授業科目担当の医学部教官

分野	授業科目	担 当 教 官
人 間 科 学 分 野	人間学A	古賀成彦、野俣浩一郎、宮村庸剛、吉村秀一郎、松屋福蔵、山下隆則
	生体機能学A	岩掘修明、松田好弘、中根允文、雨宮次生、中島成人、澄川耕二、柴田尚武、安永暁生、大平明弘、岡崎祐士、上之郷眞木雄、徳永能治、北岡 隆、中村龍文、調 漸、城丸みさと
	健康科学A	田口 尚、宮本 勉、関根一郎、赤澤昭一、岡三喜男、鈴木 伸、草場英介、山口義彦、寺本 司
	ハンディキャップA	中根允文、岩崎勝郎、雨宮次生、小林俊光、藤井 徹
	人間学B-1	辻 芳郎、神村直久、松坂哲應、福田雅文
	人間学B-2	中園一郎、久保真一、岸川正大、下川 功
	生体機能学B-1	矢野捷介、相川忠臣、松本逸郎、栗山一孝、早野元信、瀬戸信二、門田淳一、下田照文、山田恭暉
	生体機能学B-2	牧山和也、横山直方
	生体防御B	宮本 勉、矢野明彦、江口勝美、鳥山 史、由井克之、宿輪哲生、田中洋一、鶴殿雅子、渡辺雅久
	生体と薬B	谷山紘太郎、丹羽正美、長谷場純敬、姫野明彦、市川正孝、柴田 治、佐々木均、古賀宏延
基 礎 自 然 科 学 分 野	健康科学B	兼松隆之、釘宮敏定、上平 憲、綾部公懿、富岡 勉、藤岡ひかる、田川 泰、草野裕幸、中越 亨、福田俊夫、古井純一郎
	人類生態学B	竹本泰一郎、門司和彦
	化学A	矢島エイ子
	統計学B	近藤久義
	化学実験B	矢島エイ子
	遺伝学B	吉川 勲
	細胞生物学B	山下俊一、難波裕幸、小路武彦、古川鋼一
	動物生理学B	相川忠臣、松田好弘

分野	授業科目	担当教官
応用自然科学分野	生物化学A	宮西隆幸
	応用生物科学B	奥村 寛、佐藤 浩
総合科目	平和講座	貞森直樹
	現代の生命像 1	齋藤 寛、小野賢爾、古川鋼一
	現代の生命像 2	宮本 勉、齋藤 泰、齋藤 寛
	繁栄と貧困	竹本恭一郎
	長崎の自然・社会・文化	三根真理子
	火山と災害	竹本恭一郎
	放射能の光と影	林 邦昭、貞森直樹、高辻俊宏
情報と歴史	相川忠臣	
一般情報処理科目	情報処理演習	三根真理子、本田純久
健康コンディショニング科目	コンディショニング	上平 憲、岡崎祐士、鈴木 伸、山口義彦、大石和徳、馬場是明

B. 全学教育関連委員会の医学部委員

委員会	委員
全学教育実施調整委員会	毎田徹夫 (教務委員長) 矢野捷介 (学生委員長) 田口 尚 (人間科学分野専門委員会委員長) 近藤宇史 (応用自然科学分野専門委員会委員長)
分野・科目別専門委員会	
・人間科学分野	中園一郎 田口 尚
・基礎自然科学分野	丹羽正美
・応用自然科学分野	近藤宇史
・総合科目	齋藤 寛
・一般情報処理科目	上平 憲
・外国語関連科目	新川詔夫
・健康コンディショニング科目	藤井 徹
・留学生用科目	中根一穂

表2 平成8年度 1～5年次授業科目(系)責任者

学年	授業科目	責任者
1年次	医学入門	矢野捷介
	人間生物学	相川忠臣
	人体構造系I	長島聖司
2年次	人体構造系II	長島聖司
	神経・感覚器系	岩堀修明
	発生・組織系	中根一穂
	動物性機能系	松田好弘
	内臓機能・体液系	相川忠臣
	生体分子系	毎田徹夫
	環境因子系I	奥村寛
3年次	病理総論系	田口尚
	感染症系	宮本勉
	腫瘍系	古川鋼一
	免疫系	矢野明彦
	分子病態総論	近藤宇史
	環境因子系II	齋藤寛
	薬理学I	丹羽正美
	循環器系	矢野捷介
	呼吸器系	林邦昭
	消化器系	関根一郎
	血液・リンパ系	朝長万左男
	中毒・物理的要因系	竹本泰一郎
薬理学II	丹羽正美	
4年次	脳・神経系	中村龍文
	腎・泌尿器系	田口尚
	内分泌・代謝・栄養系	赤澤昭一
	生殖系	石丸忠之
	運動系	岩崎勝郎
	小児系	辻芳郎
	診断学	河野茂

学年	授業科目	責任者
4年次	外科治療学	兼松隆之
	感覚系(眼科学)	雨宮次生
	感覚系(耳鼻咽喉科学)	小林俊光
	皮膚・結合組織系	鳥山史
	精神系	岡崎祐士
	社会医学I	齋藤寛、竹本泰一郎
	内科総括講義	江口勝美
	外科総括講義	兼松隆之
臨床検査医学総括講義	上平憲	
リサーチセミナー	中根一穂	

学年	授業科目	責任者
5年次	法医学	中園一郎
	社会医学II	竹本泰一郎、齋藤寛
	内科総括講義	江口勝美
	外科総括講義	兼松隆之
	小児科総括講義	辻芳郎
	整形外科総括講義	岩崎勝郎
	皮膚科総括講義	鳥山史
	眼科総括講義	雨宮次生
	泌尿器科総括講義	齋藤泰
	耳鼻咽喉科総括講義	小林俊光
	放射線医学総括講義	林邦昭
	産婦人科総括講義	石丸忠之
	麻酔科総括講義	澄川耕二
	脳神経外科総括講義	柴田尚武
	形成外科総括講義	藤井徹
	心臓血管外科総括講義	釘宮敏定
	総合病理学	田口尚
	医と社会(医療科学)	中根允文

表3 平成8年度 リサーチセミナー 研究テーマ

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
解剖学第一	岩堀修明	軟骨魚類におけるパラサイロイドホルモン関連ペプチドの調節機構	3
解剖学第二	長島聖司	局所解剖(頭部)	1
	岡本圭史	局所解剖(上肢)	1
	分部哲秋	局所解剖(下肢)	1
解剖学第三	中根一穂	ホルモン遺伝子調節因子結合蛋白の組織化学	3
	小路武彦	生殖ホルモン受容体遺伝子の調節因子結合蛋白の組織化学	3
生理学第一	相川忠臣	免疫異常マウスの副腎皮質機能	3
生理学第二	小野憲爾	実験てんかんモデル(キンドリング)の成立機序	2
生化学	毎田徹夫	筋肉の種類によるミオシンの構造と機能の違いに関する研究	2
	宮西隆幸	筋肉におけるエネルギー変換とミオシン頭部の動きに関する研究	1
	中山享	ミオシン軽鎖の立体構造モデルの作製	1
薬理学第一	丹羽正美	受容体画像化定量システム	2
	永山雄二	受容体の構造と機能の解析	2
薬理学第二	谷山紘太郎	虚血後の脳神経細胞障害および消化管障害の発症と修復に関与する因子の研究	2
	山下樹三裕	単一に分離した心筋細胞を用いての心筋細胞の性質の解析	1
	貝原宗重	アフリカツメガエル卵母細胞に mRNA を移入することによる神経終末、受容体細胞内機構の発現の試みとそれを用いた各機能における分子間相互作用の解析	3
病理学第一	下川功	ソマトスタチン受容体 mRNA の各種臓器での検出	2
	樋上賀一	肝細胞アポトーシスの加齢変化	2
病理学第二	田口尚	糸球体腎炎の進展機序	3
細菌学	宮本勉	プリオン蛋白の機能と病態	2
	片峰茂	HTLV-I の分子病態	2
衛生学	守山正樹	健康についての認識の国際比較研究	3
公衆衛生学	竹本泰一郎	地域保健・医療のフィールドワーク	2
	門司和彦	国際保健のフィールドワーク	1

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
医動物学	由井克之	T細胞活性化におけるストレス蛋白の役割	1
	山下慶三	細胞内寄生原虫感染におけるT細胞の役割の解析	1
法医学	中園一郎 久保真一 津田亮一	長崎県における検屍・検案活動と法医病理学	3
腫瘍医学	松山俊文	PCRクローニングによる新しい遺伝子の探索	3
	古川鋼一	癌細胞の増殖分化と糖鎖	2
原研代謝	近藤宇史	転写因子のレドックス制御	2
原研放射	奥村寛生 岡市協	培養細胞の放射線感受性と放射線防護の意義	2
原研病理	関根一郎	放射性腸炎の病態	1
	伊東正博	胃癌におけるGCSFの発現	1
原研遺伝	新川詔夫	遺伝病の連鎖解析	1
		FISH	1
	陣野吉廣	インプリンティング	1
原研細胞	山下俊一	細胞生理と病理の研究	1
	難波裕幸	放射線と甲状腺癌	1
		放射線反応遺伝子の解析	1
資料センター	岸川正大	(1)人体神経病理 (2)実験神経病理	1
分子構造解析	五十嵐章	蚊培養細胞における Dengue 3 型ウイルスの増殖に及ぼす培養温度の影響	2
	Ronald Roll Matias	Dengue ウイルス遺伝子の検出	3
病原因子機能解析	平山壽哉 和田昭裕	耐熱性下痢毒素の作用機構に関する研究	2
感染細胞修飾機構	上村春樹	トランスシアリダーゼの構造と機構	1
	中澤秀介	マラリア免疫	1
	柳哲雄	牛とくに子牛におけるクリプトスポリジウム感染について	2

教室名	指導教官	研究テーマ	受講学生数
寄生行動制御	勝又達哉 (青木克己)	寄生虫の宿主認識	1
	三井義則	駆虫薬の薬物動態	1
炎症細胞機構	中村三千男	殺菌後の遺伝子発現 I	1
	熊取厚志 鈴木章一	殺菌後の遺伝子発現 II	1
病変発現機序	板倉英世	造血臓器腫瘍の地理病理学 (アフリカと本邦の症例の比較病理組織学)	2
	鳥山寛	肝細胞癌発生に至る肝の組織学的変化	3
社会環境	溝田勉	発展途上国の医療社会学	4
疾病生態	小坂光男	発汗の測定と解析	1
	土屋勝彦	ラットの温度順化	1
	犬渡伸	紫外線と生体	1

表4 平成8年度 臨床実習責任者および臨床実習に係る協定締結病院・施設

	科 目	責 任 者		科 目	責 任 者
臨 床 実 習	第 一 内 科	長 瀧 重 信	臨 床 実 習	泌 尿 器 科	齊 藤 泰
	第 二 内 科	河 野 茂		眼 科	雨 宮 次 生
	第 三 内 科	矢 野 捷 介		耳 鼻 咽 喉 科	小 林 俊 光
	原 研 内 科	朝 長 万左男		放 射 線 科	林 邦 昭
	熱 研 内 科	永 武 毅		産 婦 人 科	石 丸 忠 之
	精 神 神 経 科	中 根 允 文		麻 醉 科	澄 川 耕 二
	小 児 科	辻 芳 郎		脳 神 経 外 科	柴 田 尚 武
	第 一 外 科	綾 部 公 懿		形 成 外 科	藤 井 徹
	第 二 外 科	兼 松 隆 之		心 臓 血 管 外 科	釘 宮 敏 定
	整 形 外 科	岩 崎 勝 郎		臨 床 検 査 医 学	上 平 憲
	皮 膚 科	片 山 一 朗		総 合 病 理 学 実 習	関 根 一 郎

臨床実習に係る協定締結病院・施設名	臨 床 実 習 科 目
長崎県立大村病院	精神神経科臨床実習
長崎県総合保健センター	第二内科臨床実習
長崎市立市民病院	第三内科、小児科、耳鼻咽喉科臨床実習
長崎市立病院成人病センター	第二内科臨床実習
長崎市障害福祉センター	精神神経科、小児科臨床実習
日本赤十字社長崎原爆病院	整形外科、原研内科臨床実習

